

アフリカ・トーゴ共和国における国際協力・支援について

～日本トーゴ友好協会の活動報告～



2019年1月9日

宮崎大学地域資源創成学部准教授
日本トーゴ友好協会設立者兼会長
金岡 保之

目次

- 1、はじめに
- 2、協会の沿革
 - 2-1、協会設立の経緯
 - (1) 設立の目的
 - (2) 協会の理念
 - (3) 設立の動機
 - (4) 組織
 - 2-2、これまでの協会の取り組み
- 3、人道的支援プロジェクト
 - 3-1、安全な水支援「井戸修理プロジェクト」
 - (1) 井戸修理プロジェクトの概要
 - (2) 井戸修理プロジェクトの成果
 - 3-2、教育機関への図書寄贈プロジェクト
 - (1) 図書寄贈プロジェクトの概要
 - (2) 図書寄贈プロジェクトの成果
 - (3) 応えることができた現地のニーズ
- 4、研究室のテーマ「地域の国際化」「地域へのグローバル・インパクト」と地方創生・地域活性化
 - 4-1、トーゴ共和国やアフリカの国内向け情報発信
 - (1) ホームページ
 - (2) Facebook ページ
 - 4-2、トーゴ共和国の有名ミュージシャンを招聘
 - 4-3、駐日トーゴ共和国臨時代理大使を宮崎県へ招聘
 - 4-4、2020 東京オリンピック関連事業（オリンピック・ホストタウン、女性アスリートモデル事業等）
 - (1) オリンピック・ホストタウン事業
 - (2) 女性アスリートモデル事業
 - (3) 2020 東京オリンピック関連事業の進捗
- 5、おわりに
- 6、巻末資料
 - 6-1、アフリカとトーゴ共和国について
 - 6-1-1、アフリカについて

- (1) アフリカの概要
- (2) アフリカにおける諸問題
- (3) アフリカの保険・医療・教育
- (4) 日本とアフリカの経済関係

6-1-2、トーゴ共和国について

- (1) トーゴ共和国の概要
- (2) トーゴ共和国の政治体制・内政
- (3) トーゴ共和国の歴史
- (4) トーゴ共和国の地理と気候
- (5) トーゴ共和国の経済
- (6) トーゴ共和国のインフラストラクチャー
- (7) トーゴ共和国の電気通信
- (8) トーゴ共和国の有資格労働可能者
- (9) トーゴ共和国の金融業界

6-2、協会のこれまでの取り組み

- (1) 国内での取り組み
- (2) 国外での取り組み
- (3) 協会への感謝状と表彰

1、はじめに

宮崎大学地域資源創成学部、紀要第2巻号の寄稿にあたり、日本トーゴ友好協会（以下、協会と呼ぶ）の7年余りの活動を纏めた。協会は駐日トーゴ共和国大使館のステイブ・ボジョナ臨時代理大使（当時）の提案で2011年11月に発足して以来、細々と活動を続けてきた。日本の皆さんに、アフリカ・トーゴ共和国¹の魅力を知ってもらう目的で、トーゴ共和国でのインターンシップを経験した学生たちと教育機関や公共機関での講演会などのイベントなどの活動を中心に行っている。

現在、協会会長である筆者が宮崎大学地域資源創成学部で教鞭を執っているため、宮崎県での協会の活動も増えてきた。宮崎とトーゴは南国として知られ、マンゴーなどの特産物をはじめ、ライフスタイル、県民性・国民性などの共通点も多くあり親近感を覚える。現在進行中の宮崎県日向市に於ける2020東京オリンピック・ホストタウン関連事業²において市民や学生・教職員の交流を促進することを金岡研究室³のメインテーマ「地域の国際化⁴」の一環として位置付け、教育・研究にも活かしていきたいと願っている。

2、協会の沿革

2-1、協会設立の経緯

(1) 設立の目的

日本に馴染みのない西アフリカのトーゴ共和国の魅力をもっと日本国民に広報すると同時に、トーゴ共和国で人道的支援活動を行う。

(2) 協会の理念

協会は、トーゴ共和国の自然、人々の暮らし、歴史、文化、民族などの魅力を通じ、多くの日本国民に発信し親しみをもってもらえることを目的として、広報活動を行っている。

トーゴ共和国は西アフリカに位置し、日本人にとっては遠いイメージがある。しかし、国民性は明るく、平和な国で、コーヒーやカカオ、綿花などの農産物や、リン鉱石などの天然資源にも恵まれているなど、限りない可能性と魅力を備えた国である。「アフリカの笑顔」と呼ばれるトーゴ共和国の魅力をもっと日本人に発信していくことが、協会の使命である。

また、トーゴ共和国は後発開発途上国（Least developed country、略語：LDC）であるた

¹ トーゴ共和国（トーゴきょうわこく、フランス語: République Togolaise）、通称トーゴは、西アフリカに位置する共和制国家。東にベナン、北にブルキナファソ、西にガーナと国境を接し、南は大西洋のギニア湾に面する。首都はロメ。南部は高温多湿の熱帯性気候。北部はサバナ気候で南部より雨量が少なく、湿度も低い。

² 日本の自治体と、2020年東京大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化等に活かしていくもの。

³ 国立大学法人宮崎大学金岡研究室（英語：Kanaoka Lab.）。

⁴ 「地域にグローバルなインパクトを与えることで、地域の国際化を促進させる」という考え。

め、社会基盤としてのインフラ整備が急務である。そこで、協会としても、ドナーを募り安全な水の供給や図書の寄贈などの人道的支援を行っている。

(3) 設立の動機

協会は、駐日トーゴ共和国大使館スティーブ・ボジョナ臨時代理大使の提案により 2011 年に設立された。協会設立者兼会長の金岡保之とトーゴ共和国との出会いは、かねてより親交のあった津田祐可子氏が駐日トーゴ共和国大使館の秘書として採用されたことがきっかけである。

金岡会長は国際ボランティア団体のロータリークラブ⁵に 14 年間にわたって所属しており、津田氏は同クラブの奨学金制度を利用してフランスソルボンヌ大学大学院で学んだ、ロータリー財団奨学生であった。津田氏の紹介により金岡会長とボジョナ臨時代理大使との間に交流が生まれ、日本トーゴ友好協会を設立する運びとなった。

(4) 組織

当協会は、会長の金岡保之と副会長の石野紗也子氏（駐トーゴ日本大使館元職員）、デザイン担当の舎川春佳氏、名古屋支部長の服部保志氏、大阪在住トーゴ人である広報担当のバナ・リシャラ氏をはじめとする他 6 名の会員、その他サポーターとしてトーゴ共和国に関心のある若い人々の 10 名で構成されている。また、協会顧問には、2013 年に横浜で開催された TICAD V において、日本の政治家としてトーゴ共和国との関係強化に尽力した元自由民主党衆議院議員の東郷哲也氏が就任している。

2-2、これまでの当協会の取り組み

協会の国内外での取り組みは多岐に渡る。国内の取り組みとしては、全国各地の高等教育機関、公的機関、NPO 法人などへの大使表敬訪問や講演を企画及び運営を行った。また、トーゴの人気歌手キング・メンサー氏らを大使館が招聘し、協会が後援して全国ツアーを開催した。また、トーゴ料理や写真、美術品の展示などのイベントを開催した。国外では、トーゴ共和国での井戸修理や図書寄贈の人道的支援プロジェクトなどを実施した。（詳細は 6-2、協会のこれまでの取り組みを参照）

3、人道的支援プロジェクト

3-1、安全な水支援「井戸修繕プロジェクト」〔図 1：井戸修理の様子（写真）〕

トーゴ共和国首都ロメ周辺地域において、3 基の井戸を現地の NPO と協力して修理を行った。トーゴ共和国に於いて、改善された水源利用者は 61%⁶で、水道設備が整備されていない村が多い。そのような村では、村人たちは水を雨水や池から確保している。しかし、その水は衛生上、悪く、水を汲みに行く労力も大変⁷なものである。そこで、協会は、現地住

⁵ 宝塚武庫川ロータリークラブに 2000 年 6 月 1 日に入会。

⁶ 61%の割合は、都市 89%、農村 40%（世界子ども白書 2013 より）。

⁷ 貧しい家庭では、子どもが家事や仕事を手伝わなければならない。その一つが、水汲み

民が生活しやすいよう、井戸修繕プロジェクトを行った。プロジェクトを行った場所は、首都ロメから 55 キロメートル離れた人口 700 人の Atti- Noufoin という農村である。現地 NPO 団体の AJVAD-TOGO と共同でプロジェクトを行った。

(1) 井戸修理プロジェクトの概要

- ① 独自プロジェクトの企画、実践、検証
- ② 現地ニーズの把握 (安全な飲み水の供給、雇用創出)

- トーゴ共和国では、改善された水源利用者は 61% で、水道設備が整備されていない村が多い。
- トーゴ共和国では、失業率が高いため、井戸を修繕する仕事によって、雇用を創出している。



図 1 : 井戸修理の様子 (写真)

- ③ サステナビリティ (持続可能性) の重視

- 以前、JICA (独立行政法人国際協力機構) が井戸を作ったが、技術を現地住民にほとんど教えていなかった。そのため、その井戸が壊れてしまった場合、現地住民は使用することができないでいた。そこで、現地の住民が自ら修理できることを目指した。
- 井戸を管理するコミッティを組織するために 5~6 人を村人から選考し、また、井戸の管理と小額な使用料を撤収する仕組みを構築した。その積立金から、井戸の修理費を賄うようにしている。

- ④ 送金の流れ

- 宝塚武庫川ロータリークラブ→駐日トーゴ大使館→トーゴ共和国の金融機関を複数経由→AJVAD-TOGO の順に、駐日トーゴ大使館経由で送金することによって、資金の安全性を確保した。

- ⑤ 現地 NPO 「AJVAD-TOGO」 との連携

- 井戸を修繕する際に、作業員の手配や修繕するための道具を調達した。

(2) 井戸修繕プログラムの成果

- トーゴ共和国の国家プロジェクトに登録された。
- 現地視察により「地域ニーズ」を発見した。
- 井戸修理プロジェクトを完了して、現地住民が井戸の仕組みや修理、発掘のプロセスを学んだ。
- 村民にとっての安全な飲み水の確保の重要性を再認識した。
- 演奏・歌・ダンスによる伝統的なセレモニーに感激した。

である。時間をかけて水汲みを子どもがしているため、学校に行けない子どもも多く、教育にも支障が出ている。

- 様々な分野の現地の人的ネットワークを構築した。
- コミッティによる管理、少額使用料の徴収（自覚と修理費）、セレモニーによる現地住民の感謝と自覚により、持続可能性を確保した。

3-2、教育機関への図書寄贈プロジェクト

国際ロータリーRID2680の2014-15年度地区補助金プロジェクトに申請し、下記の通り図書寄贈プロジェクトを行った。

(1) 図書寄贈プロジェクトの概要

- ① 実施日時：2014年12月20-23日
- ② 実施場所：トーゴ共和国首都ロメ近郊及び第2の都市カラ近郊

(2) 図書寄贈プロジェクトの成果

- バサール高校、ゼベヴィ高校、ヴォガン高校、タンジョアレ高校の高校生合計600名が各高校の付属図書館で自由に書籍を閲覧できる。
- ロメ大学などのトーゴ共和国の国際法学生協会の大学生の合計100名が専門書を受け取った。
- 孤児17名が筆記用具等を受領した。

(3) 応えることができた現地ニーズ

後発開発途上国のトーゴ共和国では、普段の学習や各種試験のための書籍、文具等が常に不足しており、合計700名の学習の機会や教育環境改善等のニーズに応えることができた。

4、研究室のテーマ「地域の国際化」「地域へのグローバル・インパクト」と地方創生・地域活性化

4-1、トーゴ共和国やアフリカの国内向け情報発信

(1) ホームページ

設立と同時に開設された協会公式ホームページ⁸は、2011年11月~2018年12月の期間で、のべ訪問者数29,667名、総ページ表示回数80,078回を記録している。

(2) Facebook ページ

Facebookを通じての宣伝活動にも力を入れており、2011年12月に開設された協会公式ページ⁹は、2018年12月時点で797名のメンバー（いいねの数）を有している。

4-2、トーゴ共和国の有名ミュージシャンを招聘

駐日トーゴ共和国大使館と共同して、King Mensah氏とそのバンドメンバーを日本に招聘し、日本縦断コンサートの企画及び運営を行った。

⁸ 日本トーゴ友好協会（大使館オフィシャル）公式ホームページ <https://www.togo-friends.com/>

⁹ 日本トーゴ友好協会公式 Facebook ページ <https://www.facebook.com/togo.friends/>

協会では、トーゴ共和国やその文化を日本人に知ってもらうために、「トーゴ音楽の王様」と呼ばれるキングメイサーのトーゴ大使館主催、当協会後援のコンサートを開いた。これまでに、コンサートは2013年、2014年に開かれた。このコンサートでは、キングメイサーの音楽によって、初めてアフリカ音楽に触れる地域住民をも魅了し、日本人のアフリカへの飢餓や貧困などから作られる悪いイメージを払拭した。

4-3、駐日トーゴ共和国臨時代理大使を宮崎県へ招聘

2017年7月13日から7月17日の間、宮崎大学地域資源創成学部の金岡保之准教授（協会会長）が担当する基礎教育科目「グローバル・コミュニケーション」の授業に、駐日トーゴ共和国大使館の臨時代理大使を招聘し、アフリカやトーゴ共和国の魅力などについて理解のための講話をしてもらった。また、JICA本部アフリカ支援担当の職員に、アフリカ開発会議（TICAD）の取り組み・課題などについて紹介してもらい、これらを広く知る貴重な機会を学生たちに提供した。更には、宮崎大学と地域包括連携協定があり関係の深い地域を、大使に訪問してもらい、地域の国際化にも貢献してもらった。イベント参加者および多くの学生への国際協力への興味・関心、理解が深まる機会となった。

4-4、2020東京オリンピック・ホストタウン関連事業（オリンピック・ホストタウン、女性アスリートモデル事業等）

日向市と共同してオリンピック・ホストタウン関連事業に着手した。

（1）オリンピック・ホストタウン事業

2020東京オリンピックに於けるホストタウン事業は、スポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現など様々な分野でレガシー創出に繋げることを目的にしている。日向・トーゴ共和国間で行われるホストタウン事業は、ホストタウンの相手国が少ないアフリカ大陸（54カ国中、38カ国が未登録）、中南米（39カ国中27カ国が未登録）に於けるホストタウンの取り組みの質の向上及び交流の活性化を目指すものである。また、この取り組みによって、地域に共通する課題やノウハウが抽出され、後続団体のモデルとなる事例を創出する効果が期待されている。

（2）女性アスリートモデル事業

国際オリンピック委員会総会が、オリンピック競技大会への女性の参加率50%の実現、及びオリンピック競技大会への参加機会の拡大を通じて、スポーツへの女性の参加と関与を奨励していることを背景に、この事業が内閣で企画及び提案された。この事業は、東京大会への女性アスリートの参加や当該国の女性の社会進出を促すことを目指し、ホストタウン事業に於ける多くの女性選手と市民との積極的かつ多様な交流を図るものである。

日向市は、トーゴ共和国から女性アスリートを招待し、市民とのスポーツをはじめとする、多様な交流を促進するために、女性アスリートモデル事業を行う「プロジェクト実施自治体」に申請した。

(3) 2020 東京オリンピック・ホストタウン関連事業の進捗

- ① 2018.12.28 宮崎県日向市に於ける 2020 東京オリンピック・ホストタウン事業が登録された。
- ② 2019.1.11 金岡会長、十屋市長・市職員（日向市）、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局職員らが大使館を表敬訪問

5、おわりに

これまで本協会は、約7年の間、外交や国際協力について右も左も分からぬ状態から、多くの方々からの協力を得て、試行錯誤しながら走り続けてきた。今後も、微力ながら日本とトーゴ共和国の友好関係向上の為に、この活動を地道に継続すべく努力していきたい。

また、宮崎県日向市に於ける 2020 東京オリンピック・ホストタウン事業を当研究室のメインテーマの「地域の国際化」の一環として位置付け、PBL 教育¹⁰や実践型教育を通して、日本人学生や留学生と共に異文化理解・多文化共生等の教育・研究に資する活動にしたいと考える。

6、巻末資料

6-1、アフリカとトーゴ共和国 (図2) について

6-1-1、アフリカについて¹¹

(1) アフリカの概要

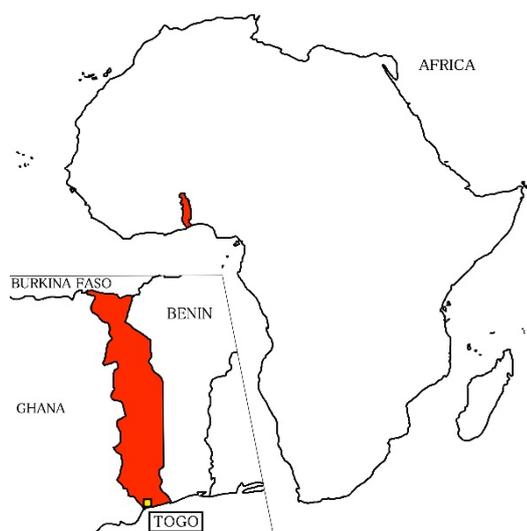
- 面積：3026 万km² (世界の 22.2%)
- 国数：53 カ国 (国連加盟国の 27.6%)
- 人口：9 億 2,500 万人 (世界の 14.2%) (2006 年)
- 人口増加率：2.1% (2005-2010 年)

(2) アフリカにおける諸問題

① 貧困・飢餓

アフリカは、2004 年～2006 年の GDP 経済成長率の平均が 5%を超える国が 20 を数え、またインフレ率も 10 年前の 5 分の 1 へと低下するなど、全体として良好な経済実績を示している一方で、以下の様に深刻な貧困問題を抱える大陸である。

- 後発開発途上国 (LDC)：34 カ国
- 1 人あたり国内総生産 (GDP)：745 ドル (2005 年時点、サブサハラ・アフリカ)



(図2：アフリカとトーゴ)

¹⁰ 課題解決型学習 PBL、Project-Based Learning。

¹¹ 外務省「アフリカの現状と日本の対アフリカ政策」(2007.7 更新) を参照。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/africa/monitor_shiryo.html (2018.12.30 入手)

カ¹²のデータ)

- 1日1ドル未満で生活する人：全人口の41.1% (2004年時点、サブサハラ・アフリカのデータ)
- 飢餓率が35%を超える国：18カ国

② 紛争

多くの国や地域において、長期にわたった内戦や紛争が終息傾向にあり、民主的選挙や憲法の国民投票の実施、国連平和維持活動(PKO)の任務完了等、開発の土台である平和と安定への第一歩が踏み出され、和平・民主化プロセスが一層進展している。他方で、未だ紛争が継続している地域があるほか、多くのアフリカ諸国では、その平和は依然として脆弱。

- 国連安保理：安保理決議の5割超えがアフリカ情勢(2006年)
- 国連平和維持活動(PKO)：予算、人員の約7割がアフリカ
- 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の援助対象者数：517万人(全体の24.9%)

(3) 保険・医療・教育

- 平均寿命：男性：48.8歳 女性：50.2歳(2005年)
- エイズ(HIV)：感染率上位10カ国全てがサブサハラ・アフリカ(2005年)
15-49歳人口の5.9%が感染(2006年)
- 初等教育学齢期で学校に通っていない児童：4550万人(2002年)
- 15歳以上の識字率：63.3%(2004年)

(4) 日本とアフリカの経済関係

① アフリカからの輸入品

アフリカは、先端産業に不可欠な希少金属(レアメタル)や石油等、天然資源の宝庫であり、日本の産業・生活にとって重要な輸入相手である。また、コーヒー・カカオ・バナラ豆などの農産物やたこ・いかなどの海産物をアフリカから大量に輸入している。

- アフリカからの輸入額：1兆5,411億円(総輸入額の2.3%)(2006年)
- アフリカへの輸出額：1兆994億円(総輸出額の1.5%)

② 市場としてのアフリカ

現在、アフリカの人口は約9億人(世界の14%)であるが、人口増加率は世界一で、2025年には世界の17%、2050年には20%を占めると推定されており、潜在的な巨大市場であると言える。

③ アフリカへの投資

2004年時点で、在アフリカの日本企業は299件。2004年の直接投資は13件、124億円である。

¹² サブサハラ・アフリカはミレニアム目標(MDGs)達成に向けての進捗が最も遅れている地域。

6-1-2、トーゴ共和国（図3）について¹³

（1）トーゴ共和国の概要

- 面積：54,390 km²
- 人口：761 万人
- 首都：ロメ
- 言語：フランス語（公用語）、エヴェ語、カビエ語他
- 民族グループ：エヴェ（約 35%）をはじめ約 40 のグループからなる。
- 宗教：伝統的宗教 67%、カトリック 18%、イスラム教 10%、プロテスタント 5%



図3：トーゴ共和国の国旗

（2）トーゴ共和国の政治体制・内政

- 政体：共和制
- 議会：国民議会
- 元首：フォール・エソジンナ・ニヤシンベ（Faure Essozinma GNASSINGBE）
大統領
- 政府：首相 コミ・セロム・クラス（Komi Sélom KLASSOU）、
外務・協力・アフリカ統合大臣 ロベール・ドゥセ（Robert DUSSEY）

（3）トーゴ共和国の歴史

1960年4月27日に、トーゴ共和国はフランスから独立し、その時、オリオンピオ大統領が就任。その5か月後にトーゴ共和国は国連に加盟した。

1963年にクーデターが起これ、その後の約4年間はグルニツキーが国を束ね、そして1967年1月13日にエヤデマ大統領が就任した。エヤデマが大統領をした時代が一番長く、1967年から2005年までに続いた。その時代に、国民は一党支配と民主主義の2つの統治体制を体験する。一党支配は、1967年から1990年までに行われ、国の繁栄のために、エヤデマが数多くのプロジェクトを策定した。これにより、1980年代には、トーゴ共和国はアフリカのスイスと言われるほどに静穏な国になっていった。しかし、1990年から民主化運動が始まり、政治問題は深刻になった。そして、政治家の間でいろいろな意見の違いが発生し、1991年に国民会議が開かれた。更には、政治家の思い違いが積み重なり、国と欧州連合の関係を途絶えさせ、国際社会の殆どの国との関係も途切れたのであった。

15年間、トーゴ共和国は経済的援助を全く受けられる状況では無く、更にこの状況下で2005年2月5日にエヤデマが亡くなった。

¹³ トーゴ共和国大使館「トーゴ：アフリカに笑顔をもたらすワンダーランド」（2012.1更新）を参照。

外務省「トーゴ共和国（Republic of Togo）基礎データ」（2018.9.3更新）を参照。

そして 2005 年 4 月の選挙後に、フォール・ニヤシンベが大統領になり、2010 年の選挙でも再選された。彼は 2007 年に模範的な議会の選挙を実施し、それによって国際社会の全ての国がトーゴ共和国を認めるようになった。そして、欧州連合からの経済援助も始まった。また、大統領選挙方法の確立により、国際社会との関係も更に強まった。

(4) トーゴ共和国の地理と気候

トーゴ共和国は西アフリカに位置し、西にはガーナ、東にはベナン共和国、北にはブルキナファソが隣接している。南北に 660 km²、に広がった通路のような形をしており、南は 50 km²に渡って大西洋に面している。

平原によって特徴づけられているが、トーゴの領土を横切るようにしてアタコラ山脈が南西から北東に横たわっている。山脈をまたぐようにして北西と南東には多くの大きな川が流れて給水路の役割を果たしている。

熱帯性気候で、南東に吹くモンスーンと呼ばれる海洋風により雨が降り、また、ハーマタンという乾燥した風によって夜は寒く日中は暑くなる。

(5) トーゴ共和国の経済

- 主要産業：農牧業（綿花、カカオ、コーヒー）、鉱業（リン鉱石）
- GDP：44 億米ドル
- 一人当たり GNI：540 米ドル
- 経済成長率：4.95%

農業が GDP の約 40%、労働人口の約 70%を占める。主食となる食用作物（トウモロコシ、キャッサバイモなど）の栽培が盛んであるが、食品加工業は殆ど行われていない。現在、トーゴ共和国では食用作物の栽培から換金作物の栽培へとシフトするよう推進されている。

リン鉱石、セメント、金といった鉱物資源及び綿、コーヒー、カカオが主要な外貨獲得源となっている。

ニヤシンベ大統領は 2010 年の再選後、国際社会からの支援を得つつ、ロメ自治港を中心としたインフラ整備に取り組み、経済成長による雇用の創出や貧困削減を進めている。また、徴税能力の向上、公共投資、民間投資の活性化のための制度改革も実施中で、近隣諸国の経済成長も受けて、2012 年以降 5%前後の成長率も記録している。

(6) トーゴ共和国のインフラストラクチャー

ロメの商港は 900 ヘクタール以上ある大きなインフラストラクチャーで、トーゴ共和国の商人にとって効率的な道具であり、後背地（ブルキナファソ、マリ、ニジェール）に向かって企業活動を展開するための重要な交通の要所となっている。

ニヤシンベ・エヤデマ国際空港のエアターミナルのサービスは、西アフリカで最新のもので、年間 11,000 トンの貨物を扱っている。ニヤントゥグ国際空港はトーゴ共和国の後背地と、世界の大都市を繋ぐ役割を担っている。国内便としては、「FlyTogo」という会社があり、トーゴ共和国の複数の都市間を繋ぐ役割を担っている。

(7) トーゴ共和国の電気通信

通信機器の市場は、主に 3 つの電話会社が占めており、固定電話の会社であるトーゴテレコムは、完全にデジタル化された通信・伝達網を持っており、136 の村と公園で、主に 70,000 回線ほど開通している。また、17 のプロバイダーが、300 あるインターネットカフェに商品を売り出しており、自宅で接続できない利用者のためにサービスを提供している。

(8) トーゴ共和国の有資格労働可能者

就学率は 73% に達しており、アフリカで高い水準を誇っている。職業訓練に関しては、有資格労働者を育てるための学校が設置されており、また、「ル・フォン・ナショナル・ダプロンティサージュ・ド・フォーメーション・エ・ド・パーフェクシヨヌマン・プロフェSSIONナル」(職業訓練と技術再教育の国立基金)による経済的支援により、企業の従業員の能力の向上を推進している。これらにより、訓練され資格をもった労働者が増え、労働者の雇用の自由は保証されている。

(9) トーゴ共和国の金融業界

トーゴ共和国は、CF フランを通貨とする西アフリカの 8 カ国によって構成される「西アフリカ経済通貨同盟」(UEMOA) に加盟している。そのため、UEMOA の銀行委員会による経済的支援によって保証される経済的安定の恩恵を受けており、自由主義的な為替規制を享受している。

ECOWAS 開発投資銀行、西アフリカ開発銀行、エコバンクグループなどの地域銀行の本部がトーゴに設立されることで金融制度は発展し、また、欧州や北米の銀行の殆どはトーゴ銀行と業務提携契約を結んでいる。

トーゴ政府は自由主義的な投資コードや、投資家の法的保護措置を設けて、外資を引き込もうと積極的に努めている。

6-2、協会のこれまでの取り組み

(1) 国内での取り組み

- ① 2011.11.5「第 1 回トーゴ共和国大使館公開講演会を開催」於、大阪(大使館主催)
- ② 2012.2.1「大使館にて交流会を開催」於、東京
インターンシップや仕事などで現地に訪れた人々を中心とした交流会を大使館にて開催した。
- ③ 2012.2.23~24「ボジョナ臨時代理大使による中川市長(宝塚市)への表敬訪問及び視察」於、兵庫
ボジョナ臨時代理大使を招聘し、第 1 回ロータリークラブ講演会、宝塚第一病院視察、宝塚商工会議所訪問、中川市長(宝塚市)表敬訪問、日本トーゴ友好協会親睦パーティなどのプログラムの企画及び運営を行った。
- ④ 2012.2.26「ボジョナ臨時代理大使による講演」於、宝塚武庫川ロータリークラブ
- ⑤ 2012.3.11~18「第 1 回トーゴ写真展を開催」於、神戸アートビレッジセンター
大使館後援の下、協会主催のトーゴ写真展を開催。

- ⑥ 2012.3.17 「JICA 関連イベントにて会員がスピーカーとして発表」於、JICA 地球ひろば
JICA 地球ひろばの月間国別特集関連イベント「日本の学生が見たトーゴ体験談&ドキュメンタリーフィルム上映」にて協会の会員がスピーカーとして発表。
- ⑦ 2012.4.15 『JICA 地球ひろば』 イベントにて、会員がトーゴ体験談を披露」於、東京 JICA
大使館及び JICA が主催の下、トーゴ共和国でインターシップを経験した学生が現地体験談を東京 JICA 発表。
- ⑧ 2012.5.17 「the farewell party of DLGL2011 (The Japanese Language Program for Diplomats and Public Officers)でのボジョナ臨時代理大使による講演」於、交流基金国際センター
国際交流基金による「外交官のための日本語プログラム」の送別会にて、ボジョナ臨時代理大使が日本語で講演を行った。
- ⑨ 2012.5.18 「ボジョナ臨時代理大使による表敬訪問及び講演」於、神戸大学
ボジョナ臨時代理大使が神戸大学中村副学長、駿河研究科長、高橋教授を訪問し、大学院国際協力研究科でボジョナ臨時代理大使によるスピーチと質疑応答を行った。
- ⑩ 2012.7/11~12 「ボジョナ臨時代理大使、協会メンバーによる名古屋訪問」於、名古屋
ボジョナ臨時代理大使、協会メンバーで名古屋を訪問。第1日目はトヨタ本社訪問と工場視察、愛知県立大学学長表敬訪問、大使講演、親睦会。第2日目は、名古屋大学総長表敬訪問、大使講演、名古屋市副市長表敬訪問を行った。
- ⑪ 2012.7.14 「協会がインターンシップ生を募集」
協会が夏季休暇期間中を中心に、トーゴ共和国でのインターンシップ生の募集を行った。
- ⑫ 2012.7.17~27 「トーゴ共和国写真展を開催」於、愛知県国際交流協会 1F
- ⑬ 2012.7.21 「大使館主催のイベント『アフリカの笑顔、トーゴを知る』を開催」於、高輪区民センター
高輪区民センターにてトーゴ共和国の魅力を発信するためのイベントを開催。展示会、フィルム上映、大使館広報担当による講演をプログラムとして行った。
- ⑭ 2012.10.26 「協会会員バナ・リシャーラ氏によるテレビ出演」於、テレビ東京
テレビ東京系新番組「世界ナゼそこに？日本人～知られざる波乱万丈伝～」の収録に協会会員であるトーゴ人のバナ・リシャーラ氏が出演した。
- ⑮ 2013.1.29 『『国際交流講演会～アフリカ・トーゴ共和国を知ろう～』を開催」於、虎ノ門いきいきプラザ
- ⑯ 2013.2.27 「トーゴのイベントを開催」於、幕張ベイタウンエリア

トーゴ大使館ジュルス・アデュアヨム職員（広報担当）¹⁴の講演に続いて、刊行誌「モザイク」編集者の岩崎有一氏、金岡会長によるトーゴ体験談の講演などのイベントを開催した。

- ⑰ 2013.4.14「金岡会長によるトーゴ調査プログラムの結果についてスピーチを実施」於、宝塚武庫川ロータリークラブ
- ⑱ 2013.4.15~26「大使館主催のイベントを開催」於、大使館
ボジョナ臨時代理大使が「トーゴ文化をよりよく知ろう」というテーマで、展示会、フィルム上映、ディスカッションをするイベントを開催した。
- ⑲ 2013.4.27「大使館主催のキング・メンサー¹⁵のコンサートを開催」於、東京赤坂区民センター区民ホール
キング・メンサー氏が来日し、東京で大使館主催のコンサートを開催。
- ⑳ 2013.4.29「大使館主催のキング・メンサーのコンサートを開催」於、宮城県仙台市
仙台市にて大使館主催、協会後援のキング・メンサー氏のコンサートを開催した。
- ㉑ 2013.7.11「大使館主催イベント『トーゴについて話しましょう』を開催」於、高輪区民センター
大使館主催の下、トーゴ共和国の文化、観光、生活スタイルなどを知るためのイベントを開催した。
- ㉒ 2013.9.20「協会顧問主催、ボジョナ臨時代理大使による名古屋視察」於、名古屋市東郷町
- ㉓ 2014.2.6「宝塚武庫川ロータリークラブにて協会会員がトーゴプロジェクト調査委員会プレゼンを実施」於、宝塚武庫川ロータリークラブ
宝塚武庫川ロータリークラブのトーゴプロジェクト調査委員会プログラムにて協会会員の石野氏が「アフリカ及びトーゴ共和国の現状と、トーゴ調査委員会の活動」についての報告を行った。
- ㉔ 2014.5.17「キング・メンサーのコンサートを開催」於、大阪歴史博物館
トーゴ共和国の54回目の独立記念日にあたり、大使館主催のキング・メンサー氏のコンサートを開催。Shalestone Music、COLUTURE 共催。協会、Japan National Tourism Organization、NPO 法人国際芸術家センター、ローランド後援。
- ㉕ 2014.5.20「宝塚武庫川ロータリークラブにてボジョナ臨時代理大使とキング・メンサーが出席、また、金岡会長によるスピーチを実施」於、宝塚武庫川ロータリークラブ
宝塚武庫川ロータリークラブ 35周年例会にて金岡会長が「私が、トーゴ友好協会

¹⁴ 駐日トーゴ共和国大使館広報担当。

¹⁵ King Mensah（キング・メンサー）氏 トーゴ共和国の有名歌手で、「トーゴ音楽の王様」と呼ばれている。

を設立し、駐日トーゴ大使館と協働しているわけ」を発表、また、ボジョナ臨時代理大使とキング・メンサー氏がゲストとして出席。

- ⑳ 2014.5.25「キング・メンサーツアーファイナル及び東京公演を開催」於、東京協会後援、大使館主催のキング・メンサー氏のツアーファイナルと東京公演を開催。各国大使・政府関係者などが多く参加した。
- ㉑ 2014.6.13「トーゴ投資セミナー Investment Seminar for Togo を開催」於、大阪商工会議所
大阪商工会議所及び関西経済連合会の協力の下、大使館主催のトーゴ投資セミナーを開催した。
- ㉒ 2014.7.11~31「トーゴ月間として、トーゴ料理や写真、美術品を展示」於、JICA 関西
JICA 関西の1階ロビーにおいて巡回写真展「日本人が見たトーゴ」を開催。これに合わせ、JICA 関西食堂の7月のエスニック料理もトーゴ料理を提供。また、JICA プラザ関西にてトーゴの楽器や民芸品などの展示を行った。
- ㉓ 2014.7.14「ボジョナ臨時代理大使による村田学長（同志社大学）への表敬訪問及び大学の授業でゲストスピーチを実施」於、同志社大学
同志社大学に於いて、村田学長表敬訪問および金岡会長の担当の授業でボジョナ臨時代理大使によるゲストスピーチが行った。また、同日に京都大学、大阪大学へ表敬訪問を行った。
- ㉔ 2014.7.16「協会顧問の東郷衆議院議員がニヤシンベ大統領と会談」於、トーゴ共和国大統領府迎賓館
東郷衆議院議員（協会顧問）が、ニヤシンベ大統領と会談。経済連携の他、PKO 訓練センターへの支援やギニア湾海賊対策支援について意見交換を行った。
- ㉕ 2014.7.18「ボジョナ臨時代理大使による JICA 関西訪問」於、JICA 関西
関西初のトーゴ月間（2014年7月）にトーゴ料理と写真、美術品展示の見学のため、ボジョナ臨時代理大使が JICA 関西及び築野所長へ訪問した。
- ㉖ 2014.7.18「ボジョナ臨時代理大使による神余副学長（関西学院大学）への表敬訪問」於、関西学院大学
ボジョナ臨時代理大使が関西学院大学副学長及び国際教育・協力センター(CIEC)を表敬訪問した。
- ㉗ 2014.8.15「トーゴ共和国の初等・中等教育機関の図書館にフランス語の教科書を寄贈」
協会は、フランス語の教科書・専門書等を、大使館を通じて、トーゴの初等、中等教育機関の図書館に寄贈するために送金手続きを行った。ドナーは宝塚武庫川ロータリークラブで金額は約60万円である。
- ㉘ 2014.8.16「金岡会長による講演」於、RI2680 地区、HYOGO ロータリーE

クラブ

2014年から新たに宝塚武庫川ロータリークラブにより創設された、RI2680 地区、HYOGO ロータリーE クラブで、金岡会長がトーゴ共和国への支援についての講演を行った。

- ③⑤ 2016.9.1「辻旺一郎会員が新聞社 2 社に掲載」
辻会員が新聞社 2 社に取り上げられた。写真集の出版とトーゴで日本の文化を TV で放映するイベントを企画していることについて話した。
- ③⑥ 2016.10「金岡会長がセダミヌ臨時代理大使¹⁶の就任パーティに参加」於、大使館
- ③⑦ 2017.3「金岡会長による大使館への表敬訪問」於、大使館
- ③⑧ 2017.7.12「セダミヌ臨時代理大使による崎田市長（日南市）への表敬訪問」於、宮崎県日南市東郷地区
セダミヌ臨時代理大使、JICA アフリカ担当職員、JICA 宮崎デスクの職員らと日南市東郷地区での市民交流、崎田市長（日南市）を表敬訪問、油津宮崎大学デスクで地元中学生と交流を行った。
- ③⑨ 2017.7.13「金岡准教授（協会会長）による基礎教育科目グローバル・コミュニケーション公開授業『JICA アフリカンセミナー・宮大グローバルデザイナーフォーラム』を実施」於、宮崎大学地域資源創成学部教育棟 L102
金岡准教授（協会会長）が基礎教育科目グローバル・コミュニケーション公開授業「JICA アフリカンセミナー・宮大グローバルデザイナーフォーラム」を行い、その際にセダミヌ臨時代理大使がゲストスピーチを行った。
- ④⑩ 2017.7.13「セダミヌ臨時代理大使による池ノ上学長（宮崎大学）への表敬訪問」於、宮崎大学
- ④⑪ 2017.7.13「セダミヌ臨時代理大使による安田町長（門川町）への表敬訪問及び視察」於、宮崎県門川町
- ④⑫ 2017.7.14「セダミヌ臨時代理大使、アベイニシアチブ奨学金留学生、日本人学生・教員との英語での交流会『ENGLISH CAFÉ 特別企画』を実施」於、宮崎大学地域資源創成学部研究棟 L224
- ④⑬ 2017.7.14「セダミヌ臨時代理大使による十屋市長（日向市）への表敬訪問を実施」於、宮崎県日向市
セダミヌ臨時代理大使は十屋市長（日向市）を表敬訪問し、地域伝統舞踊で踊るなどの文化交流及び坪谷小学校など日向市を視察した。

（2）国外での取り組み

- ① 2013.2.11~21「トーゴ共和国で井戸修理のプロジェクトを実施」
宝塚武庫川ロータリークラブがドナーとなり、協会主催の、トーゴ共和国での井戸

¹⁶ Mr. SEDAMINOU Afognon Kouakou（セダミヌ・アフォニョン・クアク）氏 2016年10月より駐日トーゴ共和国大使館現臨時代理大使。

修理のプロジェクトを実施。村民 700 名とその周辺の村落に、久しぶりに安全な水が供給された。

- ② 2013.10.11「東郷協会顧問によるトーゴ共和国への公式訪問」
東郷顧問がトーゴ共和国に日本の国会議員として、初めて公式訪問を行った。ニャシンベ大統領と大統領府にて会談、安倍総理からの親書を手渡した。
- ③ 2014.12.20~23「教育機関への図書寄贈プロジェクトを実施」
国際ロータリーRID2680 の 2014-15 年度地区補助金プロジェクトに申請し、図書寄贈プロジェクトを行った。

(3) 協会への感謝状と表彰

- ① 2014.5.30「大使館及び協会より東郷哲也氏（協会顧問）に感謝状を授与」
大使館及び協会は、東郷哲也衆議院議員（協会顧問）の「トーゴの教育支援ボランティアプロジェクト 2014」に感謝し、感謝状を授与した。
- ② 2014.6.2「大使館より協会に感謝状を授与」
大使館は日本における協会のこれまでのトーゴ共和国のプロモーション活動に対し、感謝状を授与した。
- ③ 2017.2.4「関西テレビのソーシャル映像祭で会員による制作ビデオ『トーゴから見た、日本の今。』がグランプリを獲得」於、関西テレビなんでもアリーナ協会の作品「トーゴから見た、日本の今。」が「一映像の力でいい社会を一ソーシャル映像祭@カンテレ」でグランプリを獲得した。